

**ジソウイン** 地藏院 白山宮所屬の寺坊である。白山宮莊嚴講中記録に、觀應三年七月廿四日未刻當山の大阿闍梨地藏院幸海僧都が入滅したことを記してある。白山問答に地藏院を眞言としてあるが、舊時は素より天台であつたのであらう。

**ジソウパン** 地藏橋 金澤橋梁記に、「地藏橋、小姓町」とある。此の橋は僅かに板石三枚にて架けた石橋で、舊傳に昔淨住寺が此の地に在つた時の門前に當り、そこに地藏堂があつたからの名であるといふ。

**ジソウボウ** 地藏坊 鳳至郡南北郷に屬する部落。

**ジソウボサツオウケンシンキ** 地藏菩薩顯驗新記 六册。金澤高嚴寺普門の著で、加能越三州に安置する地藏尊の靈驗を編したものである。自序に、元祿十五年六月廿四日普門元照河州高安郡一枝花菴に敬書すとある。

**ジソウボン** 地藏盆 藩政の頃、七月廿四日に行はれた地藏祭を、地方によつて地藏盆といふ所もある。

**ジソウマツリ** 地藏祭 藩政の頃、七月廿四日金澤の養智院に地藏祭が行はれた。隆元阿闍梨の住職であつた時、夢想の發句があつたといふ地藏尊で、寶永元年當住素然・支考・秋之坊・北枝等がその發句に歌仙を賡いだことがある。

**ジソウマキリ** 地藏詣 金澤に於ける地藏菩薩順拜の廿四ヶ所は多く犀川方面のみであり、その命日は廿四日であつた。

- 一 遍照寺 眞言宗 泉寺町
- 二 玉泉寺 時宗 泉寺町
- 三 希翁院 禪宗 六斗口

シソ—シチ

四	念西庵	淨土宗	泉
五	千手院	眞言宗	野町五丁目
六	常松寺	禪宗	泉寺町
七	西方寺	天台宗	泉寺町
八	弘願院	淨土宗	野町願念小路
九	眞長寺	眞言宗	泉寺町
十	極樂寺	淨土宗	野田寺町
十一	理證院	眞言宗	野田寺町諏訪八幡
十二	伏見寺	眞言宗	野田寺町
十三	大圓寺	淨土宗	野田寺町
十四	玄光院	淨土宗	野田寺町酒屋小路
十五	永福寺	禪宗	八坂
十六	桂岩寺	禪宗	十一屋
十七	寶集寺	眞言宗	十一屋
十八	追分堂	淨土宗	野田往還
十九	成學寺	淨土宗	蛤坂
二十	妙慶寺	淨土宗	蛤坂
廿一	大蓮寺	淨土宗	野町
廿二	雨寶院	眞言宗	犀川橋詰
廿三	法船寺	淨土宗	法船寺町
廿四	養智院	眞言宗	養智院前

**シソク** 士族 明治二年三月廿八日加賀藩は士分の階級を改め、舊八家を上士上列、人持組を一等上士、頭役及び頭並を二等上士、平士を三等上士、輿力を一等中士、歩を二等中士、歩並を下士と稱した。後金澤藩になつて、同年十月十六日先に太政官の發した布達によつて、上士上列より下士に至るまでを士族と稱し、足輕以下を卒族と名づけ、同月士族の給祿を、又十一月には現石支給法を定めた。蓋し給祿は尙從來の草高といふ如く、現石支給はその收納米に比すべきものであつた。三年二月藩廳令して士卒工商の農業を兼營する

を許し、五月又現に藩吏たる者の外、士族卒族の商業に従ふことを許し、七月藩の陪臣たる仕與力・給人(中小姓・小姓)を士族に、徒組と足輕とを卒族に加へた。當時藩の華族一戸・男三人・女八人、士族七千七百九十七戸・男一萬二千九百七十七人・女一萬四千七百七十六人、卒族九千七百三戸・男一萬四千六百五十五人・女一萬二千三百八十三人であつた。後明治五年正月卒族を廢し、擧げて士族に編入することになつた。

**ジタ** 自他 又は地他とも書く。自國と他國の略で、藩政の時領内と領外とのことをいふた。

**ジダイ** 地代 河北郡五ヶ庄に屬する部落。  
**シタオビシメゾメ** 下帯締初 藩政の頃、男兒十二歳となつた時は、初めて下帯を締め、赤飯を炊いで祝した。女兒は五歳から腰巻を纏うたが、それに對する祝儀はなかつた。

**シタキリダカ** 下切高 ↓トリダカ 取高。  
**ジタケンシヨ** 自他群書 五册。享保七年森田盛昌の著。三輩開書には前田利家から光高の萬治元年に至るまでの事實を記してあるが、本書はその後を續ぎ、貞享元年に至るまでの事件を集める。主として加賀藩に關するものであるが、傍ら皇室・幕府等にも及ぶから自他群書と題したのであらう。

**シタタチバナ** 下橋 江沼郡橋内の小字。  
**シタテシンカイ** 仕立新開 ↓シンカイ 新開。

**シタテムラセコヤク** 仕立村勢子役 藩政の時、仕立新開の世話役を御仕立村勢子役といひ、臨時に十村の子弟に分役を命じたのである。

**シタビヤクシヨウ** 下百姓 藩政の時、一戸を構へた百姓ではなく、家族の二三男又はその家に雇附せられるものゝ爲に、私に田地の高を分配して耕作せしめるものをいふた。この慣習は往古から存し、元祿の時にも許されたが、元文中に停止し、享和に至つて嚴禁した。

**ジタヘンイツキ** 自他變異日記 二册。天正十三年十一月越中彌波郡木船の地震から、寶曆十一年三月越中放生津の火災に至るまでの間に、加賀藩・大聖寺藩・富山藩及び三郡等に起つた一切の災異に就いて記したものである。

**シタヤゴゼン** 下谷御前 加賀藩主第十二代前田齊廣の女寛姫は、小倉侯小笠原忠微に嫁し、下谷御前と呼ばれた。  
**シタヤマ** 下山 鳳至郡明千寺の部落西北方に在る山。高さ八一米。  
**シチイレダカ** 質入高 藩政時代に百姓が借銀等によつて、その持高の上に質權を設定せしめることをいふた。質入高をなすことは法の禁する所で、犯す時は高を沒收し且つ身柄を處罰せられた。

**シチカシソン** 七家詩存 一册。富田景周・伊藤祐之・陸原之淳・僧知一・野村圓平・千秋藤範・東方履の作詩を集めたもの。  
**シチカシヨ** 七ヶ所 ↓カナザハ 金澤(八、本町と地子町)。  
**シチクロ** 七黒 河北郡笠野郷に屬する部落。  
**シチジツケンモン** 七十問門 金澤城風多